

ICTで 授業 をDX!

学年 小学校4年 教科 国語 など

「ごんメーター」で自分の考えを広げる! 深める!

使用するアプリケーション等
ミライシード
(オクリンク)

単元・題材 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう「ごんぎつね」

本時の目標 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、1人1人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。(思考力、判断力、表現力等)

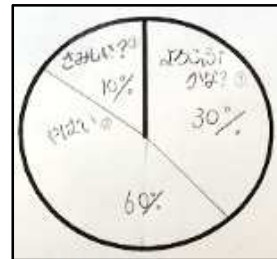
ICTを活用することで できること

- ・前時の学習を振り返る際に、自分の「ごんメーター (気持ちを表す円グラフ)」を確認することで、学習した記憶が刺激され、内容を思い出しやすくなり、自分のごんに対する気持ちの変容が分かる。
- ・オクリンク (デジタルホワイトボード) を活用することで、自らの思考と照らし合わせながら作ることができる。書き直しもデジタルだから素早くできるので、「間違ったらいけない」等の意欲に余計な負荷がかからない。
- ・子供たちの「ごんメーター」を瞬時に回収し全体に示すことができる (見た目も手書きより良い) ので、自分または自分たちとの共通点や相違点が一目で分かり、意見を言いやすくなる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 導入

- ① 前時のワークシートを見て、第2場面の「ごんメーター」を確認する。
- ② 本時の課題をつかむ。
めあて
ごんの気持ちについて話し合っ、物語の読みを広げよう。
- ③ 第3場面を音読する。



2 展開

- ① 前時に出た意見を確認して、自分で「ごんメーター」を作る。
 - ワークシートに自分の「ごんメーター」をつくる。
- ② 「ごんメーター」を用いて、グループで話し合ってまとめる。
 - 自分のグループにワークシートを見せながら、自分の意見を発表する。
 - 自分の意見と比べながら質問し、感じ方の違いに気付かせるようにする。
- ③ グループで出た意見について共有する。
 - ワークシートを黒板に貼り、発表する。
 - 自分のグループと他のグループとの意見を見比べ、質問する。
- ④ 全体で共有後、自分の意見と友達の意見との共通点や相違点についてまとめる。

① 前時のワークシートを見て、第2場面の「ごんメーター」を確認する。

② 「ごんメーター」を用いて、グループで話し合ってまとめる。

③ グループで出た意見について共有する。

④ 全体で共有後、自分の意見と友達の意見との共通点や相違点についてまとめる。

3 まとめ

ごんの気持ちについて話し合い、自分と同じ意見や自分とは違う意見を聞くことで、新しい発見があった。

※児童の言葉でまとめさせる。上記は期待する教師のまとめ

- 振り返りを行う
- ワークシートに書く。

DX!

DX後 (赤字はICT活用場面)

1 導入

- ① 前時のオクリンクを端末上で見て、第2場面の「ごんメーター」を確認する。
 - 前時の「ごんメーター」を見せ、ごんの気持ちについて話し合っことを思い出す。
- ② 本時の課題をつかむ。
めあて
ごんの気持ちについて話し合っ、物語の読みを広げよう。
- ③ 第3場面を音読する。

2 展開

- ① 前時に出た意見を確認して、自分で「ごんメーター」を作る。
 - オクリンクでワークシートを配布する。
 - 送られてきたワークシートに「ごんメーター」をつくる。
- ② 「ごんメーター」を用いて、グループで話し合ってまとめる。
 - 作った「ごんメーター」を見せながら、自分の意見を発表する。
 - 自分の意見と比べながら質問し、広げていくことにつなげていく。
- ③ グループで出た意見について共有する。
 - 大型提示装置に児童のごんメーターを映して発表する。自分のグループと他のグループとの意見を見比べ、質問する。



- ④ 全体で共有後、自分の意見と友達の意見との共通点や相違点についてまとめる。

3 まとめ

ごんの気持ちについて話し合い、自分と同じ意見や自分とは違う意見を聞くことで、新しい発見があった。

※児童の言葉でまとめさせる。上記は期待する教師のまとめ

- 振り返りを行う
- ワークシートに書く。

ほんの中でも自分もごんメーターができて、全員の意見を組むのが、自分もごんメーターができて、他のほんも自分のほんも、ごんメーターができて、50%にしたり、心配を40%など、いろいろ、ごんメーターができて、

授業者から (成果・課題・留意点)

- ・「ごんメーター」を作る時間が短縮され、児童の思考する時間が増えた。
- ・「ごんメーター」を複数見比べることで、友達との考え方の違いに気付き、また、話し合いで様々な意見を共有し自分の考えを改めて自己決定することができた。
- ・「ごんメーター」を作ることに時間を要してしまう児童もいた。本時のめあてを常に意識させ、端末を効果的に使いながら本時の目標を達成できるようにしていきたい。
- ・この授業だけではなく、グループの数が多くなればなるほど教師が見取ることが困難になると考えられる。端末を授業後に見て評価することもできるが、端末があるからこそ授業の評価がしやすくなった。子供への声かけや支援の回数が増えるような試みをしていきたい。